

不動点定理による安定性解析 正誤表

本書の内容に以下の誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

お手持ちの本の「刷数」とこの表の「該当刷数」が一致する箇所をご参照ください。お手持ちの本の「刷数」の調べ方は[こちら](#)

(2024年10月18日更新)

該当刷数	頁	行数など	誤	正
1	70	定理 2.3.1 2 行目	は、有界で凸な閉集合とする。	は、凸な閉集合とする。
1	280	定義 6.4.14	部分集合 $S \subset C_r^{lm}$ が、同程度収束であるとは、任意の $f \in S$ について、任意の微小な $\varepsilon > 0$ に対し十分大きい $T = T(\varepsilon) > 0$ をとれば、 $\ f(t) - f(\infty)\ < \varepsilon (t \geq T)$ が成り立つことをいう。	部分集合 $S \subset C_r^{lm}$ が、同程度収束であるとは、任意の微小な $\varepsilon > 0$ に対し十分大きい $T = T(\varepsilon) > 0$ をとれば、任意の $f \in S$ について $\ f(t) - f(\infty)\ < \varepsilon (t \geq T)$ が成り立つことをいう。